■「冬の足助　重伝建の町並みをあるく」

中部ブロックまちづくり委員会では、まちづくりに関心のある方を対象に、毎年バスツアーを催しています。今回は愛知県豊田市足助の伝統的な街並み散策と、豊田市美術館と豊田市博物館を訪れました。

3月2日（日）朝7時15分に静岡駅南口を出発し豊田市に入ると小雨が降りはじめ、雨の中の散策となるかと心配しましたが、山道をはしり足助の町に着く頃には雨はやみ、現地のボランティアガイドさんの案内で2グループに分かれて足助の古い町並みを歩きました。

■重伝建

足助の町は戦国時代に原型が、江戸初期には今のような町割りが出来上がりました。現在の町並みは1775年の大火後に防火のため漆喰で軒先まで塗り固めた塗籠（ぬりごめ）造りの町家が建ち並ぶようになり、その面影を今に伝えています。妻入りや平入りの家並みが約2キロにわたって続き、平成23年に愛知県ではじめて国の重要伝統的建造物群保存地区（重伝建）に選定されました。

■塩のみち

足助を通る現在の国道153号は、江戸時代から明治時代にかけて三河湾で採れた塩や海産物を信州や美濃へ運び、帰りは山の産物を尾張や三河方面に運びこみ、庶民の生活にとって重要な街道でした。塩問屋が多く建ち並ぶので「塩のみち」とよばれています。

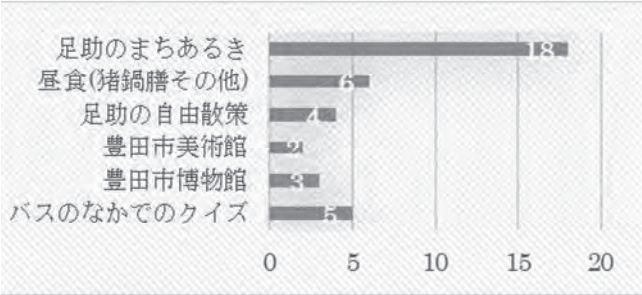
■町歩き

この日は「中馬のおひなさんin足助」のイベントの祭中で、街道沿いの家々に衣装びなや土びななどが並び、ちんどん屋も歩きまわるにぎやかな休日でした。足助観光協会会長の田口さんから足助の歴史と伝統、町並みを保存するための苦労や現状をお聞きし、約200年以上経つ田口さんのご実家である商家を案内して頂きました。鰻の寝床のように間口が狭く、奥が70mほど長く続きそばを流れる川や道につながる家々がこの町の特徴です。

昼食には地元の天然物料理の猪鍋膳を頂き、100年以上変わらぬ製法の「日月もなか」をお土産に買い足助の町を後にしました。

■アンケート

旅の最後にアンケートを書いてもらいます。見知らぬ町の歴史、住んでいる方ならではのお話、町並み保存の苦労や取組みを聞けたことが良かったとのご意見を頂きました。



※どこが一番よかったですか？の回答グラフ

このような町歩きから得た発見や気付きから、自分達が暮らす街に新鮮な眼差しを向け、眠っていた価値を発見して頂けることを期待しています。

景観整備機構まちづくり委員　鍋田　さつき